

平原正樹氏の  
ISOCインターネットの殿堂入り  
について

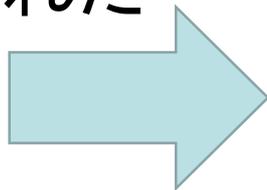
2014年6月20日

第53回JPNIC総会講演会

佐野 晋

# 平原正樹氏が ISOCインターネットの殿堂入り

- 2014年4月8日、Internet Society(ISOC)は、2014年選出の「インターネットの殿堂 (Internet Hall of Fame)」に入るメンバー24名を発表
  - 「グローバルコネクター(インターネットのグローバルな成長と利用に著しい貢献をした個人)」部門で、JPNIC前身のJNIC設立者であり、JPNIC初代運営委員長の前平原正樹(ひらばるまさき)氏が選出された



以降に詳しく紹介



INTERNET HALL of FAME

Celebrating people who bring the Internet to life

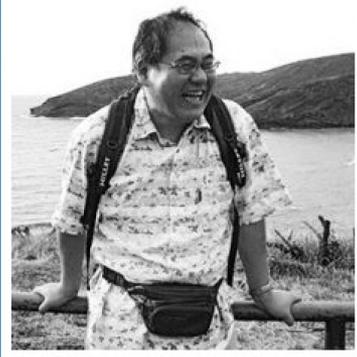
CONTACT SEARCH

Subscribe to our blog

HOME INDUCTEES NOMINATIONS INTERNET HISTORY SPONSORS PRESS BLOG ABOUT

## INDUCTEES

HOME / INDUCTEES / MASAKI HIRABARU



INTERNET HALL of FAME GLOBAL CONNECTOR

# Masaki Hirabaru

*Posthumous Recipient*

Dr. Hirabaru made crucial contributions to the deployment of the Internet's resource management. He played key roles in the formation of both JNIC/JPNIC – the Japan Network Information Center -- and APNIC, the Asia Pacific Network Information Center. JNIC/JPNIC was a pioneer ccTLD registry and countrywide IP number registry. Before its institution, these resources were managed by volunteer groups, which became overwhelmed as demand for the Internet rapidly grew. Hirabaru served as chair of JNIC's steering committee, directing the start-up of the organization, documenting its rules and procedures, and designing service operations to achieve organized and stable registration. He then extended the reach of the Internet by proposing the creation of APNIC, so that people in all countries in the Asia-Pacific region could obtain IP number resources easily.

Hirabaru earned his PhD from Kyushu University in 1989 and worked for Kyushu University, the University of Tokyo, and the National Institute of Information and Communications Technology, among other organizations and companies. A natural leader, he played key roles in various research network projects in Japan and throughout the region, specializing in the areas of routing, network measurement and monitoring, and wireless and mobile networks. Hirabaru passed away on July 29, 2008.

# 平原氏の受賞理由

- インターネットのリソース管理の展開に決定的な貢献をした
  - JNIC / JPNICの設立に重要な役割を果たした
    - JNIC / JPNICは、世界でもパイオニアのccTLDおよびIPアドレスレジストリであったが、その組織化、規則や手順の文書化、サービス設計を行った
  - APNICの設立にも重要な役割を果たした
    - 日本だけでなく、アジア太平洋地域のすべての国の人々が簡単に、IPアドレス資源を得ることを可能とすべくAPNIC設立を提案。インターネットの到達範囲を拡張した

# Internet Society(ISOC)とは

- インターネット技術とシステムに関する標準化、教育、ポリシーに関する課題の解決を目的とした非営利の国際組織
- 1992年より国際的な調整機関としての役割を担う
- その下部組織には、IETFやIABがある
- JPNIC副理事長の江崎浩はISOC理事でもある



The screenshot shows the Internet Society website homepage. The browser address bar displays "www.internetsociety.org". The page features a navigation menu with links for "Member Login", "Become a Member", "Find a Chapter", "Blog", "News", and language options: "简体中文", "English", "Français", "Русский", and "Español". The main content area includes a "Who We Are" section, a "What We Do" section, and a "Donate" button. A large banner for "Online Courses" is prominent, with the text "Learn. Engage. Act. The Internet Society announces the launch of Inforum - its new eLearning platform." and a "Find out more" link. To the right of the banner are social media links for Facebook, Twitter, LinkedIn, and YouTube, along with "Join" and "Deploy360" buttons. Below the banner are three columns of content: "Internet Events" listing "EURODIG" (12 Jun to 13 Jun, 2014, Berlin, Germany), "ICANN 50" (22 Jun to 26 Jun, 2014, London, United Kingdom), "IETF 90" (20 Jul to 25 Jul, 2014, Toronto, Canada), and "AIP/E 2014" (26 Aug to 28 Aug, 2014, Dakar, Senegal); "Internet News" listing "Internet Society Announces Raúl Echeburria As Vice President Global Engagement" (11 June 2014) and "Kathy Brown WSIS Opening Statement" (10 June 2014); and "Our Global Approach" with a world map and text about the organization's engagement and work in Africa, Asia-Pacific, Europe, Latin America, and the Caribbean, Middle East, and North America.

# インターネットの殿堂とは

- インターネットを作り上げるにあたり、並外れた貢献をした個人に対し、「インターネットの生きた歴史」として表彰し、Web上のミュージアム(殿堂)に掲載するISOCのプログラム
- 2012年から、毎年20～30余名の人を選出している
- 以下の3部門がある
  - パイオニア(インターネット初期の設計と開発に尽力した個人)
  - イノベーター(技術、産業、またはポリシーの進歩の分野で卓越してインターネットの拡大を進めた個人)
  - グローバルコネクター(インターネットのグローバルな成長と利用に著しい貢献をした個人)

# 日本での受賞者

- 高橋徹氏(2012年)

- グローバルコネクター部門
- 受賞理由: 1990年代に日本とアジアでインターネットの商用化に尽力等



- 石田晴久(故人)(2013年)

- グローバルコネクター部門
- 受賞理由; TCP/IPを推し進め、セキュリティ分野でも活躍。JNSA、ISOC日本支部等の推進等



- 村井純氏(2013年)

- パイオニア部門
- 受賞理由: 日本のインターネットの父。JUNET、WIDEプロジェクト、JPNICの推進等



# 平原正樹さんについて

# 平原正樹(ひらばる・まさき)さん

- 1960年6月12日生まれ
- 2008年7月29日急逝、享年48
- インターネットの黎明期から発展期において、その構築と発展に多大な業績を残す



写真提供: 田中仁氏

# 九州時代(～1992年)

- 北九州市出身、九州大学を卒業・勤務
- JUNETの黎明期よりその運営に携わり、在学中より、九州地区のJUNETゲートウェイの管理運用を担当
- WIDE九州NOCの立ち上げ・運用を担当  
WIDEプロジェクト ボードメンバー  
(1988年～1995年)大学間相互接続ネットワーク  
JAINの創立・運営に寄与
- JPNICの前身、JNICを創立(1990年)
- 九州地区地域ネットワーク(KARRN)の立ち上げに参画、中心的役割を果たす(1992年)

# JPNIC/APNIC時代(～1995年)

- JPNICの創立に尽力、  
初代運営委員長  
(1993年～1995年)



- APNIC実験プロジェクトを  
村井純氏と共同提案(1993年)
  - 「A Proposal for APNIC experiments」  
(1993年1月13日)
  - JPNIC内に設立されたAPNIC  
ワーキンググループの主要メンバー  
として、APNICの立ち上げに尽力
  - APNIC初代事務局メンバー(1993年～1995年)

APCCIRN-020  
1993.01.13

A Proposal for APNIC experiments

January 13, 1993

Jun Murai (WIDE Project/JNIC),  
Masaki Hirabaru (WIDE Project/JNIC)

#### PURPOSE

This experiments is to investigate how APNIC (Asia and Pacific regional Network Information Center) should be formed and how it can be operated.

#### TIMEFRAME

January 15, 1993 - January 1994

#### ITEMS

B: Guideline for establishment of Country NICs

A: APNIC database format

A: APNIC transactions

A: APNIC-CountryNICs transactions

A: APNIC-InternetNIC transactions

B: APNIC-NCC transactions

B: Services to access the database

# Merit時代～(1996年-2008年)

- 日本のすべての役職を辞し、米国ミシガン大学 Merit Network, Inc.の研究員に(1996年～2000年)
  - Multi-threaded Routing Toolkit(MRT)の開発
  - MRTへのIPv6ルーティングサポート機能追加
- (財)九州システム情報技術研究所(ISIT)  
(2000年～2003年)
  - APAN等、ネットワークに関する活発な研究活動を行う
  - 後の北村泰一の発表にゆずる
- 独立行政法人情報通信研究機構(NICT)  
(2003年～2008年7月)
  - 2006年よりグループリーダーとして50名以上の部下を抱え、研究活動・マネージメントに活躍

# JPNICにおける活躍1 (JNICの組織化)

- 当時村井氏はJon Postel氏と、日本のインターネットの資源管理のあり方について議論をすすめていた
  - 「皆が対等の立場で参加できる、グローバルなインターネットレジストリ」の仕組み作り
- 村井氏は「平原さんたち九州が日本に対して行っていることを、日本が世界に対して行ってほしい」と考えた
- 村井氏は平原さんに、日本のインターネットレジストリである「JNICの立ち上げと活動の推進」を依頼
- 平原さんはその期待に応え、JNICからJPNIC、そして現在へとつながる日本のインターネットの発展をインターネットレジストリの立場から支えた

# JPNICにおける活躍2

## (1991年 日本ドメイン名の割り当てについて)

日本ドメイン名の割り当てについて

平原正樹  
1991年8月26日

### 1. 日本ドメイン名の目的

日本ドメイン名は、学術研究を目的としたネットワークにおいて、これに属する任意のレベルの組織およびノード装置に一意的な名称を付与するものである。

日本ドメイン名割当委員会の承認は、学術研究ネットワークにおける潤滑な相互通信を支援するための技術的な作業であり、この承認によって、何ら社会的な保証が与えられるものではない。（例えば、その組織が OR に属したとしても、社会的に非営利組織であることを保証するものではない。また、組織名の承認および使用が、社会における標章などの専用権の根拠とはならない。）

日本ドメイン名割当委員会は、組織からの申請により、組織ドメイン名を割り当てる。組織名から左側の部分（第4レベル以降）は、ドメイン名の定義の範囲内でその組織が自由に決定できる。ただし、異なる管理主体を持つ組織を、同一組織ドメイン内に含むことはできない。

### 2. ドメイン名の定義

ドメイン名 ::= 単純名 | 単純名 "." ドメイン名 .  
単純名 ::= [A-Za-z] [-A-Za-z0-9]\* .

# JPNICにおける活躍3 (JPNICの組織体制整備)

- 1993年、ネットワーク団体による会員組織として改組
- 会費を徴収することで、外部援助に頼らない独立した運営体制を確立

## 1. JPNIC 発足に至るまで

ここ数年の日本における計算機ネットワークの発展は著しく、ボランティアグループによりネットワークアドレスの割当て/管理を進めることが限界に達したことは、[1]で紹介した通りである。このため、各ネットワーク団体および学会の代表から構成される JCRN (研究ネットワーク連合委員会) の下で、1991年 12月に JPNIC の前身である JNIC が発足した。

JNIC では、当時のネットワークアドレスの割当ての渋滞を解消することを主眼とし、公平かつ迅速に割当て処理を行なうための作業手順の明確化を行なってきた。ドメイン名については発足と同時に、IP アドレスについては 1992年 6月から、それまで校割を担ってきたボランティアグループから割当て/管理の業務の引き継ぎを行ない、JNIC としての作業を開始した。

しかし JNIC には、その活動を支えるための財政的基盤がなく、各ネットワーク団体からボランティアな支援が行なわれているに過ぎなかった。そこで、この問題を解決するための方法について JNIC 運営委員会で検討が進められ、各ネットワーク団体にも意見を求めた結果、ネットワーク団体(プロジェクト)を会員とする任意団体を設立することとなった。また、これを機会に名称を JPNIC と改めることとなったが、これは、世界中の各国に NIC ができた際に、JNIC では、'J'で始まる他の国(ジャマイカやヨルダン)の NIC と区別ができなくなるため、国際化の第一歩として、日本を表す ISO の 2文字コード 'JP' を使うこととしたためである。

「JPNICの活動とAPNIC」村井純、平原正樹、中山雅哉  
IP Meeting '93のプロシーディングスより

## (1) JPNIC

世界的に幾つかある NIC の中で、外部組織の援助を得ているが、資金的に独立した運用を行なっているのは JPNIC だけである。この独立性が JPNIC を、(政府組織を含む)特定の団体の影響を受けずに、中立でインターネットの発展に合わせた先取的な活動が行なえる団体としている。93年度決算額は約 1,400 万円、94年度予算額は約 2,400 万円である。

「JPNICおよびAPNIC」平原正樹、中山雅哉  
IP Meeting '94のプロシーディングスより



# 東京大学大型計算機センターでのJNIC

■ JNICからJPNICへ 10年の歩み ■

[[目次](#) | [次へ](#)]

<https://www.nic.ad.jp/ja/history/10th/page01.html>



## JPNIC発足

はじめは、数台のコンピュータとひとつの机だけでした。

'84年、JUNETが立ち上がりました。'88年頃から、WIDE、TISN、JAINなどの学術系インターネットが相次いで開通。そして'89年1月、NSFNETと相互接続され、日本のインターネットは本格的な幕開けを迎えました。その後、国内インターネットの規模の拡大に対応し、登録管理、情報提供業務を行う組織として、JNICを東京大学大型計算機センター内に設置しました。

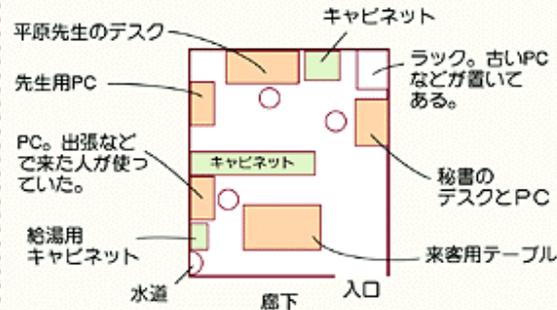


ささやかな作業スペース



研究室の雰囲気漂わせる事務局の室内

### ◆'92年夏頃のJNIC事務局室内配置



# 最後に

～平原さんがインターネットに遺したもの～

- インターネットの資源（識別子）管理を、小さな研究用コンピュータネットワーク向けにボランティア有志で行うものから、地球上のみんなが使う情報社会基盤を担えるものとする、とても大きな足がかりであった
  - ✓ 利用者本位の明確なルール設定
  - ✓ 独立して安定した業務基盤の構築
  - ✓ グローバルなインターネットを支える体制の構築
- JPNICも平原さんの業績がこのように認められたことを大変光栄に感じています。

おしらせ

# PR:「JPNIC20年の歩み 日本のインターネットとともに」のリバイス版を近日中にWebで発行予定

- 日本の資源管理の経緯・沿革をまとめ、作成したもの
- 前回になかったリファレンス等をつけた上で、加筆した
- 各トピックスに分けて解説

1. 資源管理とレジストリ
2. JNIC発足以前の資源管理からJPNICの設立まで
3. JPNICによる資源管理への本格的な体制整備
4. 本格的なインターネット時代に向けた資源管理の変遷
5. グローバルなIPアドレス管理体制の確立へ
6. ICANNによるグローバルなドメイン名管理体制
7. 汎用JPDドメイン名とJPRSの誕生
8. IPv4アドレス在庫枯渇とIPv6

